

中庭の今昔

令和7年6月13日

春以降、中庭の草がだいぶ伸びていたので、校務員さんが草刈りをしてくれ、すっきりと涼しげな中庭になりました。

本校は昭和53年、今から48年前に開校しましたが、2年後の昭和55年によく創立記念式典を開催するに至りました。その時刊行された「開校記念誌」に初代校長の田村真人先生はこうに記しておられます。

「過去2年間、第一回生ならびに第二回生の生徒諸君は、建設や造成、緑化の工事が引きつづく未整備の学校環境にもかかわらず、聊かも屈することなく、明るく、逞しく、開拓者精神をあくまで堅持して、いばらの道を踏み越え、創成の苦しみを耐え抜いてまいりました。

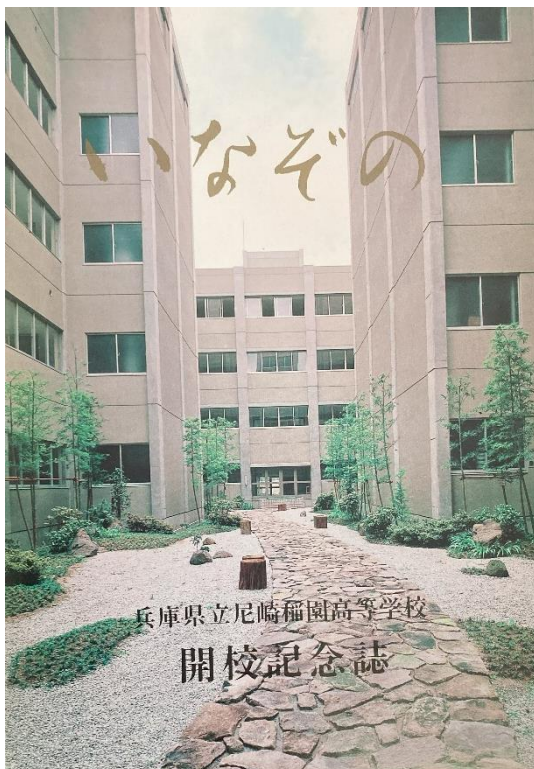
いま、輪奐（りんかん）の美を備え、近代的でかつ最新の設備をも誇りうる学舎や、新装成ったグラウンド、校地内の庭園や樹木を見るにつけても、生徒諸君、保護者各位とともに、言い知れぬ喜びと無量の感慨を覚えずにはおれません。」

（『いなぞの 兵庫県立尼崎稲園高等学校 開校記念誌』 世づくりの人造らばや

—創造的校風の樹立をめざして— より）

開校当時は、校舎は工事中で運動場もまだなく、式典も体育の授業も外部の施設を借りて行うという状況でした。苦労の中で学校生活を送られ、ようやく工事が完了した時、皆様の喜びはひとしおであったことでしょう。校地の中の1つであるこの中庭は、これまで50年近くも、生徒とともにあり、その心を和ませ喜ばせてきたのだろう、そう思います。

これからも、中庭も校舎も校地も大事に、未来へつないでいきましょう。



開校記念誌「いなぞの」（昭和55年刊行）
表紙より



現在の中庭（令和7年6月）